

わが国では年に32万人以上の方が悪性腫瘍(がん)で死亡されます。3.5人にひとりのはがんで亡くなる時代です。欧米と同じ生活習慣となるに従いがん全体の患者さんは増加しています。医学の進歩によりがんに対する治療法は手術、抗がん剤治療、分子標的薬治療、放射線学的治療など選択肢は増え、それらを適切に行うためのガイドラインに準拠した標準治療がおこなわれます。山梨県でも国や県の策定のもと山梨大学や山梨県立中央病院などの基幹病院が中心となり制がん対策を整えています。

実は私自身も昨年の2月に直腸がんとその肝臓および肺転移が見つかり、発見すぐに末期がん診断をうけたがん患者です。専門の先生方の診療により抗がん剤と分子標的薬という新しい系統の治療を適切に組み合わせ今まで生かしていただき医師としてリウマチ疾患の治療を続けることが出来ます。本当に有り難う御座います。もちろんがんはまだ私の体と共存しています。私自身は決してあきらめないこと。ベストを尽くすことを人生の指針としてリウマチ患者さんたちと接してきた自負があります。

癌の治療も治療薬があり今後も新しい治療薬・治療法が確立してくる分野ではありますが、必ずがんが治るという治療はありません。残念ながら現時点ではがんとの戦いにおいては最終的にがん治療をあきらめなく

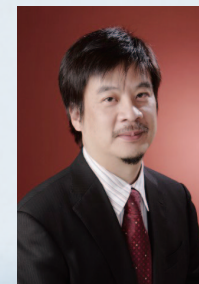
てはならない時期が必ず来るのです。そこで代替療法といわれる手段を選択される方が多くいらっしゃいます。

代替療法は研究費が莫大となる治療試験や比較検討を行えないため保険適応には成らないのですが、個々の特性に合わせた伝統医学的手法や既存の治療薬の使用方法を変えて投与するなどの方法あるいは全く新しい治療方法により通常医療を補完する医療の総称です。家族のうち一人はがんで亡くなる時代です。身内のかたの病気を心配されインターネットで情報を検索すると医療知識のない方の情報や民間療法も含めて様々な情報があふれています。私自身もまず情報をパソコンで調べました。何故ならば私たちの医学は確率に基づきより安全な、より有効な手段を選択することでより多くの人に安全かつ有効な医療を提供することを目的として構築されています。個体差のある代替医療は否定、その教育は全くありません。たしかに医学的に見てインターネット上には安全性に疑問があるものや全く根拠のない理論による代替療法が氾濫しています。

しかし私の免疫学的知識と臨床経験に基づき検討した結果、強力なアンチオキシダントであるビタミンCを大量に投与することで健康な細胞とがん細胞の感受性の差を利用した高濃度ビタミンC治療は海外の

医療研究機関でのデータも出てきており日本でも実施する医療機関が増加、なにより安全性は極めて高いことが分かり研究会での理論説明も適切でした。もちろんビタミンCでがんが治るなど考えませんし標準治療に勝るものでも置き換わるものではありません。しかし標準治療が行えなくなったひと、再発の心配をしながら手段の提供がない方、そして決してあきらめたくない人にとって甲府では実施可能な医療機関がないことから当院で自費診療部門として高濃度ビタミンC療法(点滴療法研究会 <http://www.iv-therapy.jp/outline/detail/01.html>をご参照ください)をより安全に行える環境を整えました。

米国では標準治療と代替療法をあわせて統合医療という名前が提唱されています。Why not the Best? 諦めない人生を目指してきた方がんと闘いの最後の手段として、高濃度ビタミンC療法の恩恵を受けることが出来る人が増えることを期待しています。(連絡先:にしおかクリニックES 055-222-5365)



にしおか内科  
クリニックRA 院長  
西岡 雄一

専門分野は関節リウマチ、痛風、気管支喘息、漢方薬治療。地元のファミリードクターとして、一般内科も診察。ラジオドクターとしても活躍中。